

新型コロナウイルス感染症を踏まえた 地域防災拠点の開設・運営について

令和2年9月25日
横浜市危機管理室

本日の内容

- 1 横浜市地震被害想定
- 2 横浜市における自助・共助の取組
- 3 地域防災拠点とは
- 4 新型コロナウイルス感染症を踏まえた
地域防災拠点の開設・運営

1 横浜市地震被害想定について

東日本大震災

発生日時: 2011年3月11日(金)

震央地名: 三陸沖

震源の深さ: 24km

地震の規模: マグニチュード9.0

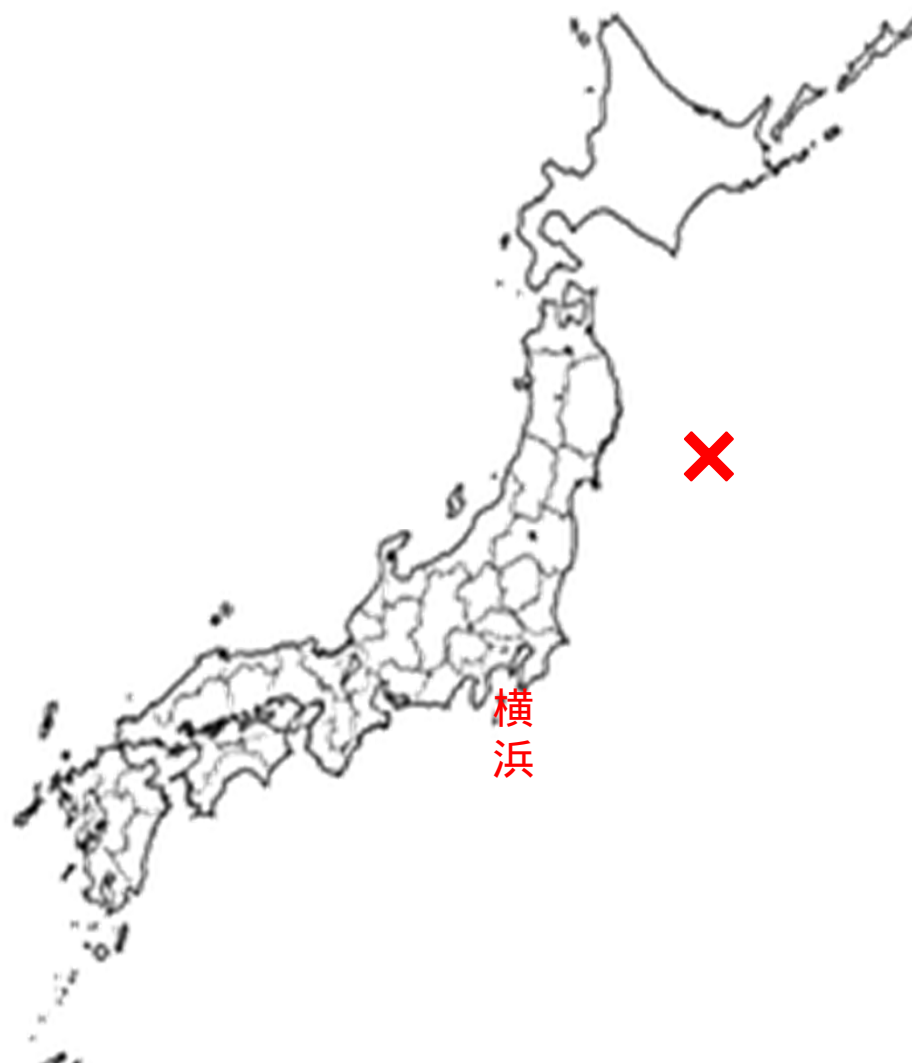
最大震度: 震度7 宮城県栗原市



東日本大震災の被害状況

死者	19,729人
行方不明者	2,559人
負傷者	6,233人
全壊家屋	121,996棟
半壊家屋	282,941棟

(令和2年3月1日消防庁HPより)





東日本大震災における横浜市内の被害状況

横浜市内の被害状況

人的被害	死者	2人
	負傷者	76人
建物被害	住家	262棟
	(半壊29、一部破損233)	
	非住家	132棟
電気(停電)		約57万世帯
帰宅困難者受入れ (市施設)		56か所 約1万8千人

横浜市での地震被害



道路の亀裂



市庁舎周辺のビル内部の被害



液状化による家屋の傾斜



横浜市での地震被害

地盤の陥没と隆起



機械式立体駐車場の浮き上がり



道路の陥没



帰宅困難者の発生

市内87箇所では約25,300人の受入
民間事業者様でも受入れを行っていただいた。



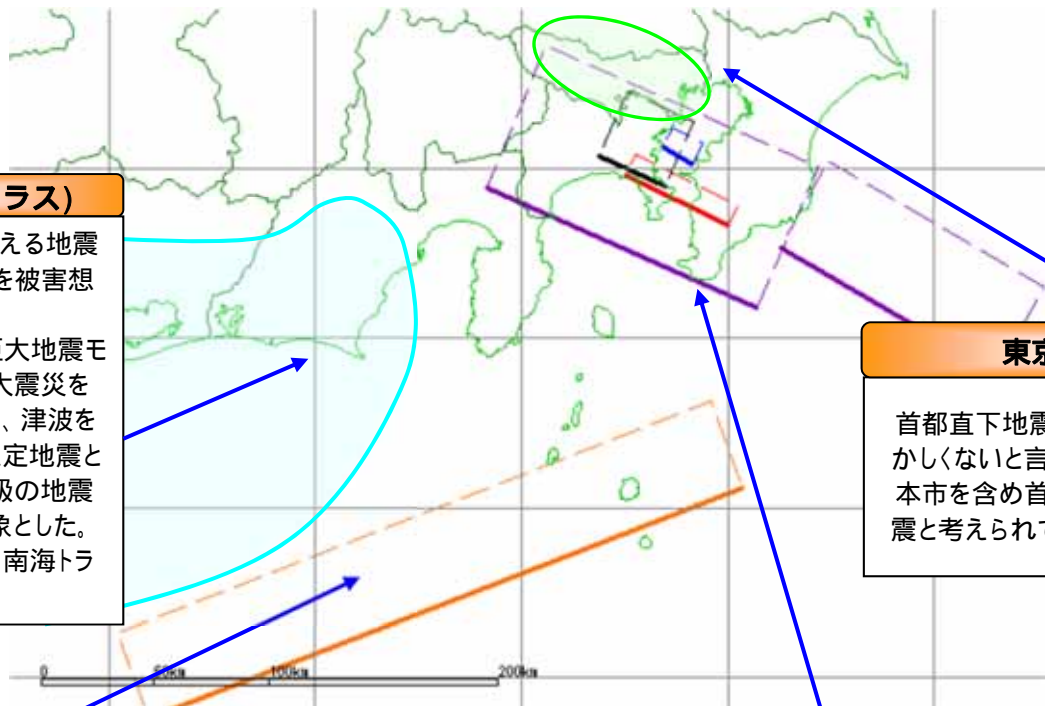
昨年発生した震度5強以上の地震

- ・熊本県熊本地方における地震
平成31年1月3日（最大震度6弱）
- ・北海道胆振地方における地震
平成31年2月21日（最大震度6弱）
- ・山形県沖地震
令和元年6月18日（最大震度6強）

上記の他に、最大震度5弱の地震が6回発生しています。



想定地震について



南海トラフ巨大地震(M9クラス)

これまで本市に大きな影響を与える地震として、切迫性の高い東海地震を被害想定の対象地震としてきた。
 一方で、内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」において、東日本大震災を踏まえ、想定外をなくす考えから、津波を伴い、最大限の被害を及ぼす想定地震として、東海地震を包括した最大級の地震である南海トラフ巨大地震を対象とした。したがって、東海地震に変えて、南海トラフ巨大地震を対象とした。

東京湾北部地震(M7.3)

首都直下地震は首都圏のどこで発生してもおかしくないと言われている。
 本市を含め首都圏での影響が極めて大きい地震と考えられている。

慶長型地震(M8.5)

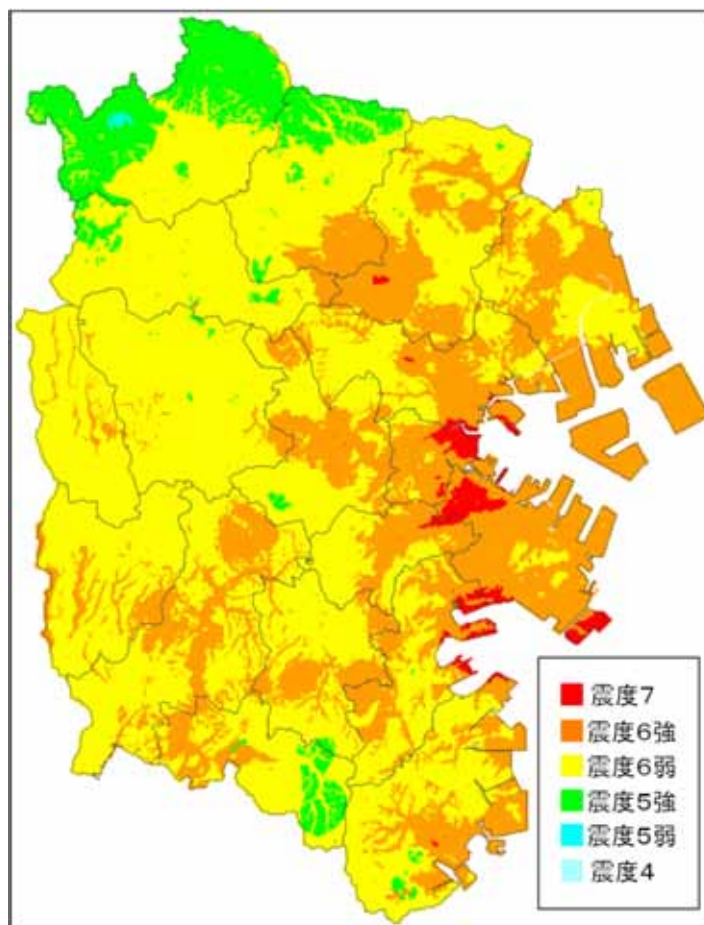
揺れの影響は大きくないものの、東京湾内への大きな津波の影響をもたらす想定地震である。発生の蓋然性は極めて低い
 が、本市として最大クラスの津波被害を引き起こす想定地震であることから、津波被害の検討対象とした。
 なお、この想定地震は、神奈川県「平成23年度津波浸水想定検討部会」の設定に従う。

元禄型関東地震(M8.1)

相模トラフを震源とする関東地震については、これまで、1923年に本市で甚大な被害をもたらした大正型関東地震(南関東地震)の再来が懸念されていた。しかし、東日本大震災を経て、想定外の事態をなく
 そうという考えから、発生の蓋然性は低いものの、大正型関東地震よりも市内の震度が大きく、津波の影響も考えられる元禄型関東地震を対象とした。

震度分布図(元禄型関東地震)

元禄型関東地震の横浜市内震度分布図



建物被害(元禄型関東地震)

被害項目	被害単位	元禄型関東地震
揺れ	全壊数(棟)	34,300
	半壊数(棟)	103,000
液状化	全壊数(棟)	204
	半壊数(棟)	7,670
急傾斜地崩壊	全壊数(棟)	154
	半壊数(棟)	289
津波	全壊数(棟)	11
	半壊数(棟)	2,760

火災被害(元禄型関東地震)

被害項目	被害単位	元禄型関東地震
出火	出火炎上件数(件)	3 7 0
延焼	焼失棟数(棟)	7 7 , 7 0 0

冬18時発災を想定

人的被害(元禄型関東地震)

被害項目	被害単位	元禄型関東地震
死者	(人)	3,260
負傷者	(人)	21,700
重傷者	(人)	2,940

冬18時発災を想定



ライフラインの被害(元禄型関東地震)

被害項目	元禄型関東地震	
	支障率	被害量
上水道	25.0%	400,000世帯
下水道	4.1%	73,000世帯
電信電話	3.4%	54,000世帯
電力	16.7%	270,000世帯
ガス	82.0%	1,200,000世帯

数値の表示について: 2桁以下の数値はそのまま用い、3桁以上の数値は上から3桁目を四捨五入しまとめています。

市内の避難者数(元禄型関東地震)

		元禄型関東地震	
		5時発災	18時発災
1日後	避難者数(人)	488,612	577,307
4日後	避難者数(人)	417,428	509,160
	避難所生活者数(人)	271,330	330,955
	疎開者数(人)	146,098	178,205
1か月後	避難者数(人)	235,471	334,970
	避難所生活者数(人)	153,058	217,731
	疎開者数(人)	82,413	117,239



市内で発生する帰宅困難者数(元禄型関東地震)

地震発生時刻	帰宅困難者数
5時発生	0人
12時発生	454,519人
18時発生	371,141人

2 横浜市における 自助・共助の取組



よこはま地震防災市民憲章

～ 私たちの命は私たちで守る ～



よこはま地震防災市民憲章

～ 私たちの命は私たちで守る ～

ここ横浜は、かつて関東大震災に見舞われ、多くの方が犠牲になりました。
大地震は必ずやってきます。その時、行政からの支援はすぐには届きません。
私たち横浜市民はそれぞれが持つ市民力を発揮し、一人ひとりの備えと地域の絆で大地震を乗り越えるため、ここに憲章を定めます。

穏やかな日常。それを一瞬にして破壊する大地震。大地震はいつも突然やってくる。今日かもしれないし、明日かもしれない。
だから、私は自分に問いかける。地震への備えは十分だろうか。

大地震で生死を分けるのは、運・不運だけではない。また、自分で自分を守れない人がいることも忘れてはならない。私は、私自身と周りの大切な人たちの命を守りたい。
だから、私は考える。今、地震が起きたら、どう行動しようかと。

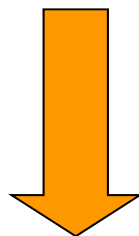
不安の中の避難生活。けれどみんなが少しずつ我慢し、みんなが力を合わせれば必ず乗り越えられる。
だから、私は自分に言い聞かせる。周りのためにできることが私にも必ずあると。

東日本大震災から、私たちは多くのことを学んだ。頼みの行政も被災する。大地震から命を守り、困難を乗り越えるのは私たち自身。多くの犠牲者のためにも、このことを風化させてはならない。
だから、私は次世代に伝える。自助・共助の大切さを。

平成 25 年 3 月 11 日制定

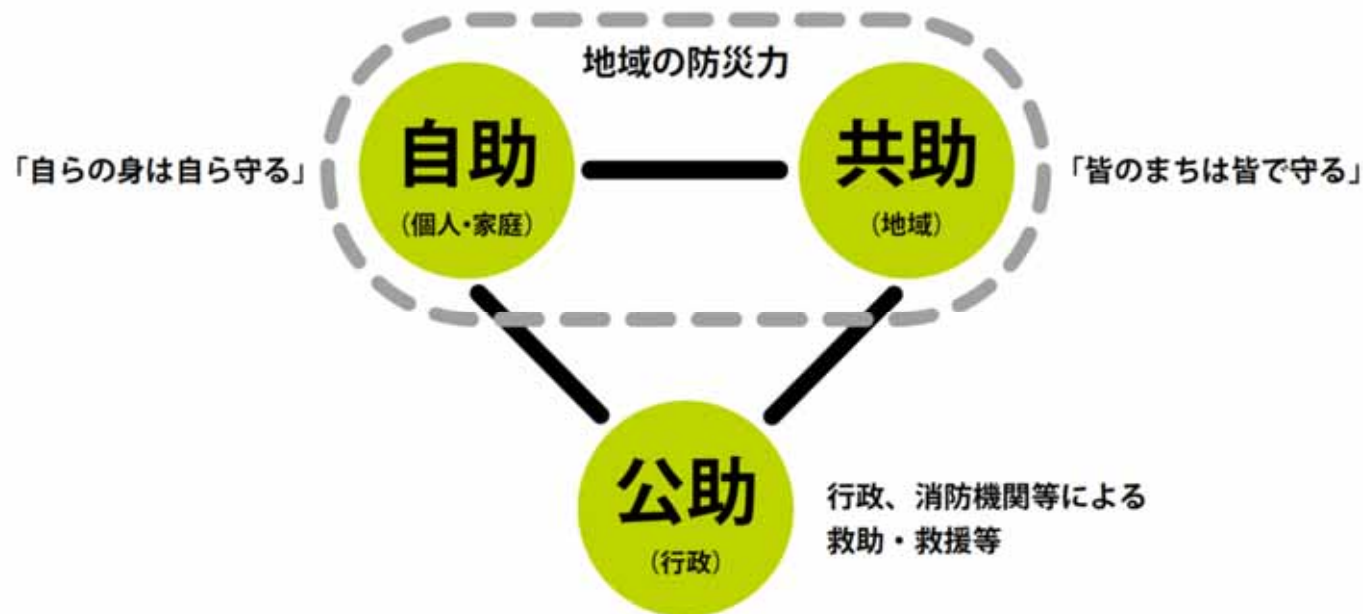
自助・共助の重要性

横浜市で対策をたてているが行政も被災する。
行政における災害対応のみでは限界がある。



自助・共助といった自主的な活動が大事
“自主防災組織の活動の推進”の必要性

町の防災組織とは...



- (1) 「自分たちの地域は自分で守る」という自覚、連帯感に基づき、自主的に結成する組織
- (2) 災害による被害を予防し、軽減するための活動を行う組織



(1) 地域住民一人ひとりが災害から「命を守る」ための備えが出来ている。【取り組み例】

《命を守るための備え...》

【家族との連絡体制】

- ・災害伝言ダイヤル
- ・集合場所の確認

【その場にあった身の安全について】

- ・台所、寝室、学校、会社、通勤、通学途中など

【家庭内での安全対策】

- ・自宅の耐震化
- ・家具の転倒防止
- ・ガラス飛散防止
- ・感震ブレーカーの設置

【備蓄について】

- ・水や食料等の確保(横浜市では3日分)
- ・トイレパック等、被災生活に必要な生活用品の確保
- ・非常持出袋 屋外へ避難の際に持っていくもの





(1) 地域住民一人ひとりが災害から「命を守る」ための備えが出来ている。【取り組み例】

地域の活動例

基礎的な訓練(個別訓練)の実施

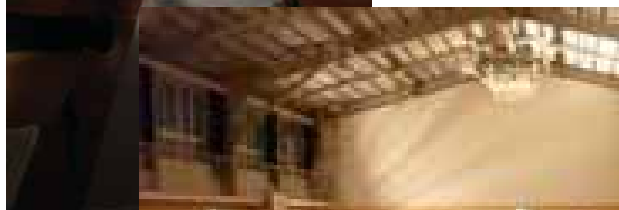




(2)町の防災組織として、地域の特性に合った減災活動を実施している。【取り組み例】

地域の活動例

地域における被害を想定した訓練(総合訓練等)





(3) 発災時に近隣住民がお互いに助け合うことができるよう、関係づくりができています。【取り組み例】

地域の活動例

お互いに助け合う防災訓練の実施



消火栓を活用した消火訓練



倒壊家屋等からの救出訓練



要援護者との避難訓練

(4) 防災の担い手を育成(増加)できている。
【取り組み例】

地域の活動例

小・中学生が参加する防災訓練



3 地域防災拠点とは

地域防災拠点とは

横浜市では、身近な市立の小・中学校等を指定避難所に指定し、地域防災拠点として防災備蓄庫の設置、防災資機材・食料等の備蓄を進め、また、被害情報等の情報受伝達手段として、各拠点に専用のデジタル移動無線を配備しています。

日頃から、家族や地域などで話し合いの場を持ち、地域防災拠点への安全な経路を確認しておくことを啓発しています。



地域防災拠点とは

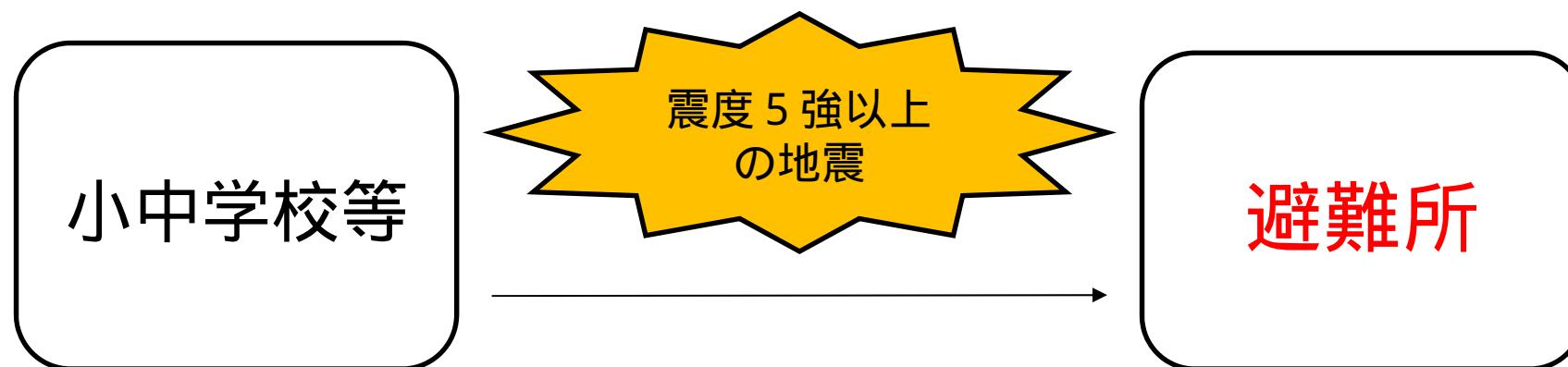
市内に 4 5 9 箇所ある災害発生時の避難所です。

市内の小中学校等が地域防災拠点に指定されています。



地域防災拠点の開設

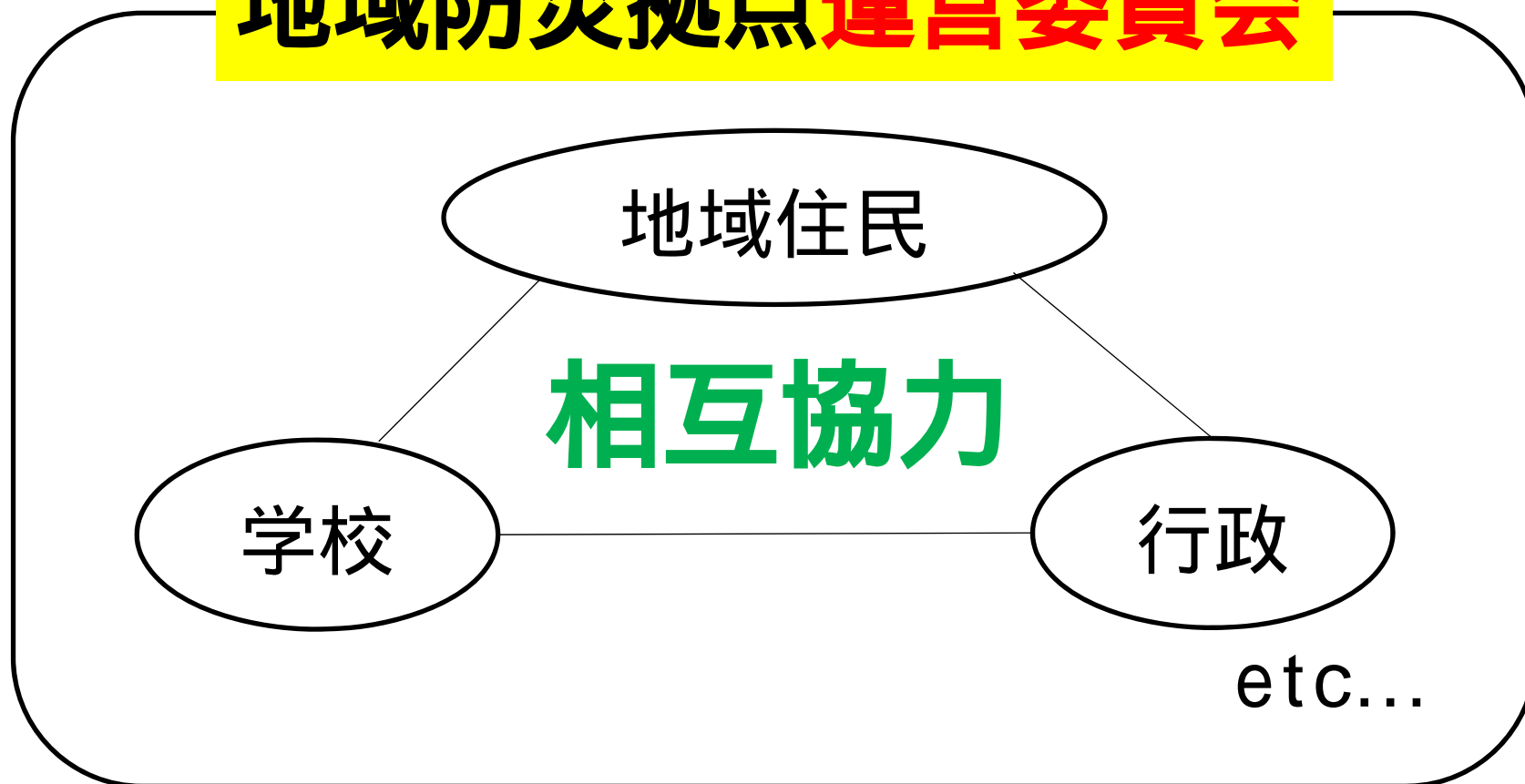
市内1か所以上で**震度5強以上の地震**(気象庁発表)が発生したときは、**全地域防災拠点が開設**されます。



地域防災拠点とは

地域防災拠点の運営主体

地域防災拠点運営委員会



地域防災拠点とは

運営委員会の平常時の活動

- ◆ 災害時に利用する教室の事前選定など**運営方法等**の打ち合わせ、運営マニュアルの作成
- ◆ 防災資機材等の使用方法の習得などの**研修会・講習会、避難所開設運営訓練**の実施
- ◆ 地域防災拠点周辺の危険箇所の確認、防災マップの作成など**防災意識の高揚**

etc...

運営委員会の震災発生時の活動

- ◆ 備蓄食料、救援物資等の要請・配布、**炊き出し**
- ◆ 仮設トイレの設置、清掃、防疫対策などの**環境衛生**
- ◆ 負傷者の**応急手当**又は医療機関への誘導
- ◆ 防災資機材等を活用した**救出・救護**

etc...

地域防災拠点とは

時間経過に伴う運営の変遷

発災初動期（概ね三日以内）	中期（三日以降）	終期
<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所の開設 ● 避難者の受け入れ ● 避難者数（避難者カード）の集計 ● 割り振り （ニーズの違いへの配慮） ● 飲料水の確保（応急給水） ● トイレ対策 ● 停電・夜間対策 ● 救出・救護活動 ● 応急炊飯 ● 避難者への情報提供 ● 巡回（警護班）の編成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 区域住民の安否情報の取りまとめ ● 避難者への情報提供 ● 備蓄物資の管理・不足物資の調達 ● ライフラインの復旧状況の把握 ● 在宅避難者への支援 ● 避難者の健康管理の報告 ● 生活ゴミ対策 ● プライベートスペースの確保 ● ボランティアの受け入れ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px; text-align: center;">避難者への情報提供</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px; text-align: center;">区本部との情報受伝達</div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 衛生・し尿対策 ● 防寒・熱中症対策 ● 避難生活部分の縮小 （仮設住宅生活への移行）

地域防災拠点とは

防災備蓄庫

空き教室及び校地の利用により防災備蓄庫を設置し、人命救助や避難生活に必要な防災資機材（発電機、担架等）、食料、水、生活用品等を備蓄しています。



食料・水

品目	
主食系	クラッカー
	缶入り保存パン
おかゆ	
スープ	
粉ミルク・ほ乳瓶	
水缶詰	



地域防災拠点とは

生活用品

品目	
紙おむつ（高齢者・乳幼児）	トイレパック
生理用品	簡易式テント
トイレットペーパー	LEDランタン
移動式炊飯器/ガスかまどセット	ラジオ
毛布、アルミブランケット	デジタル移動無線延長コード
仮設トイレ、簡易トイレ便座	トランシーバー
電話機（特設公衆電話用）	

地域防災拠点とは

救護用品

品目
リヤカー
グラウンドシート
給水用水槽
松葉杖
保温用シート



地域防災拠点とは

救助用品

品目	
発電機・投光機	ヘルメット
エンジンカッター	つるはし、大ハンマー
油圧ジャッキ	掛け矢、スコップ、
担架、ポール（応急担架用）	ロープ、大バール
金属梯子	ワイヤーカッター、大なた
ハンドマイク	のこぎり、てこ棒

地域防災拠点とは



地域防災拠点とは



避難所の様子(熊本地震)

地域防災拠点とは



避難所の様子(熊本地震)

4 新型コロナウイルス感染症を踏まえた 地域防災拠点の開設・運営

災害時の避難の考え方

避難とは、「難」を「避」けることであり、安全を確保することです。避難場所・避難所に避難することだけが避難行動ではありません。

災害時に自宅で安全を確保できる場合には、新型コロナウイルス感染を防止するためにも、在宅避難に努めてください。

行政が開設する避難所・避難場所だけでなく、親戚や友人の家への避難も検討してください。



市民の皆様にご協力をお願いしている事項

- ・ 災害時に自宅で安全を確保できる場合には、新型コロナウイルス感染を防止するためにも、在宅避難に努めてください。
- ・ 行政が開設する避難場所・避難所だけでなく、親戚や友人の家への避難も検討してください。
- ・ 在宅避難に備え食料やトイレパック等の備蓄品を準備してください。



市民の皆様にご協力をお願いしている事項

- ・避難場所・避難所に避難する際に持参する非常持出品に、マスク、体温計等も含めてください。
- ・自宅療養者においては、発災時に自宅で安全を確保できるか不安な場合は、宿泊療養施設へ入所する等の対応が可能なため、事前に各区福祉保健センター福祉保健課へお問合せください。

地域防災拠点の開設・運営のポイント

1. 拠点に来る
避難者の
属性を知ろう







2. **発災前**に
実施する事項



3. **発災後**に
実施する事項



1. 拠点に来る避難者の属性を知ろう

	陽性者（基本的には、拠点に避難しないよう横浜市が事前に調整）
	濃厚接触者
	発熱等の症状がある方
	体調に不安のない方

2. 発災前に実施する事項



拠点となる学校の
活用できるスペースの確認



感染症対策用の
備蓄品の確認

活用できるスペースの再確認

- これまでに確保しているスペース(要援護者や女性等に配慮したスペース)の他に、使用可能なスペースの確保
- 発熱や咳等の症状が出た人、濃厚接触者の専用スペース確保、動線確認
- 専用の動線などの確保が難しい場合は、時間で分け、消毒をするといった方法も

【参考：配備される感染症対策用備蓄品】

- 非接触型体温計
1本
- マスク
500枚
- アルコール消毒液
20
- フェイスシールド
30枚



- 消毒液
6
- 雑巾
10枚
- 使い捨て手袋
500組



この他に方面別備蓄庫に段ボール間仕切り及びベッドが6セット

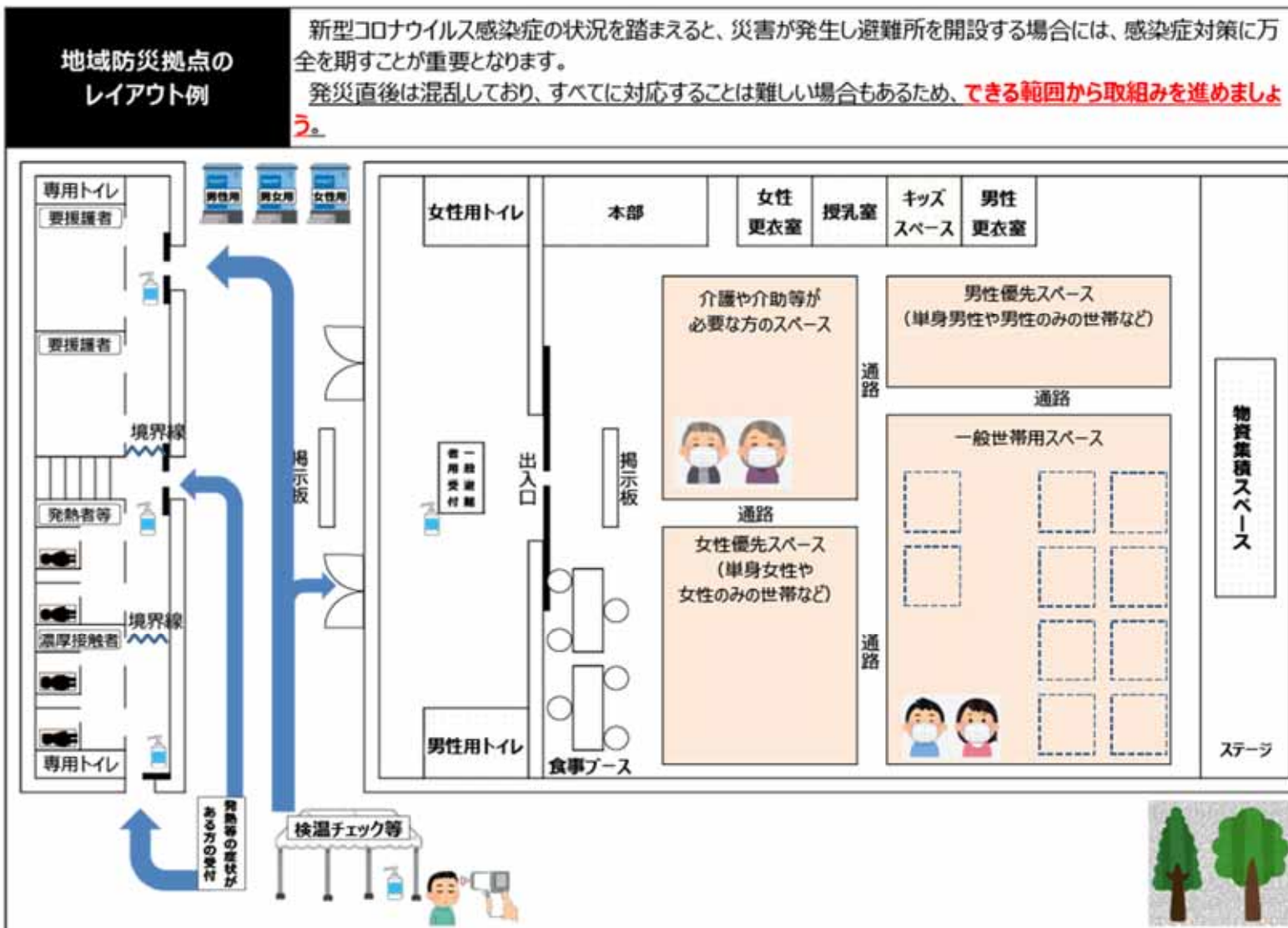
感染症対策用備蓄品

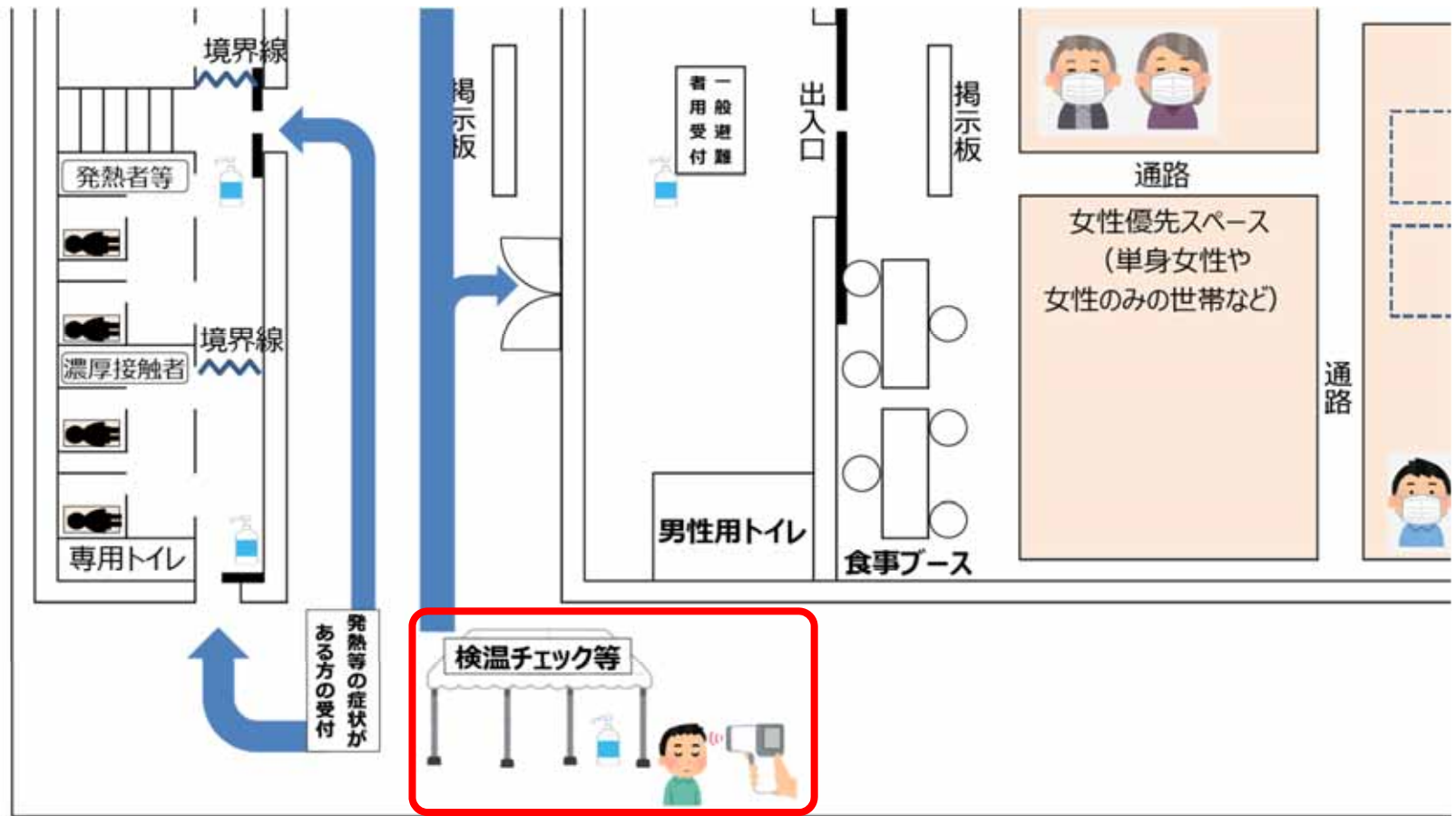


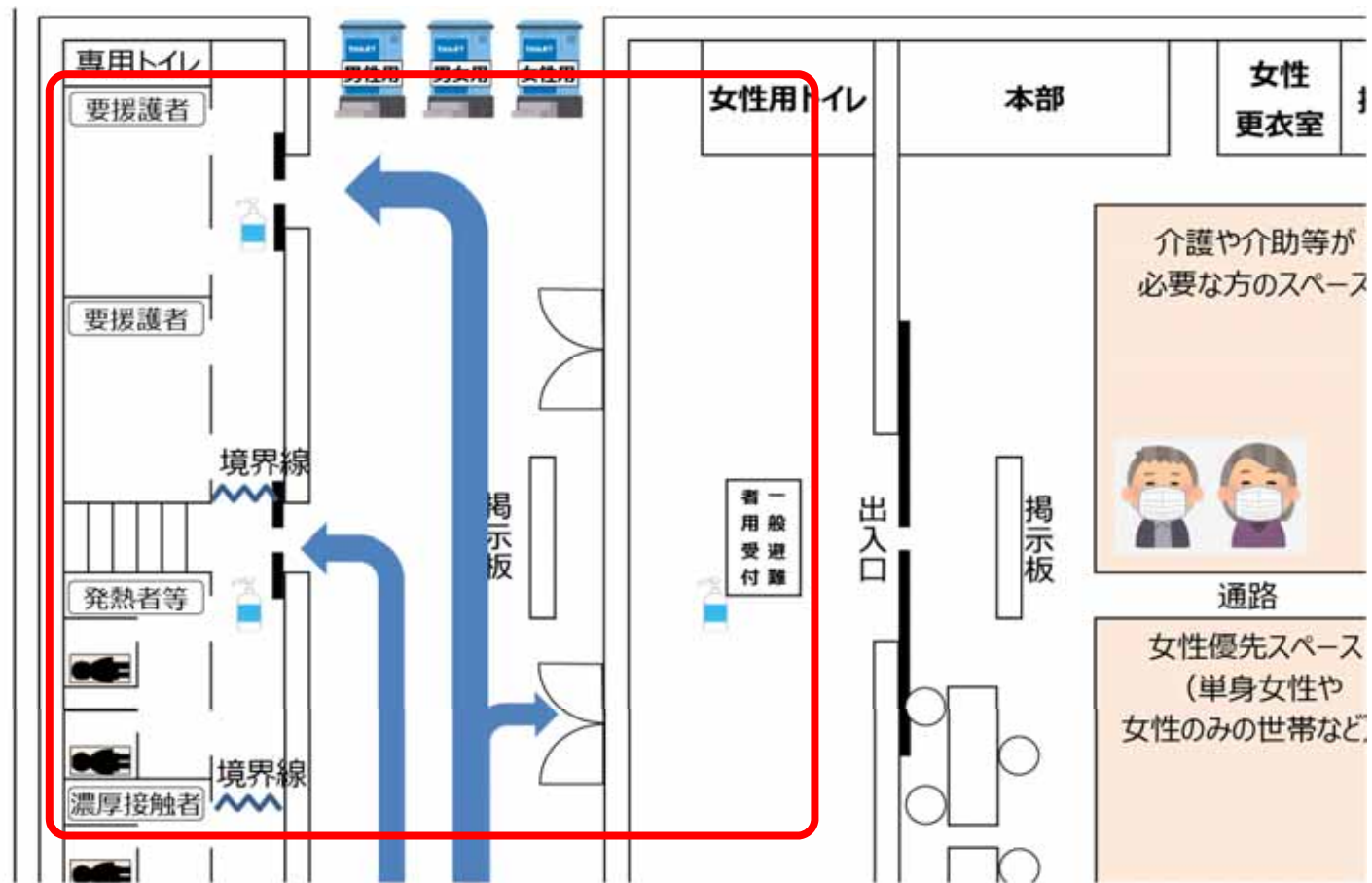
感染症対策用備蓄品



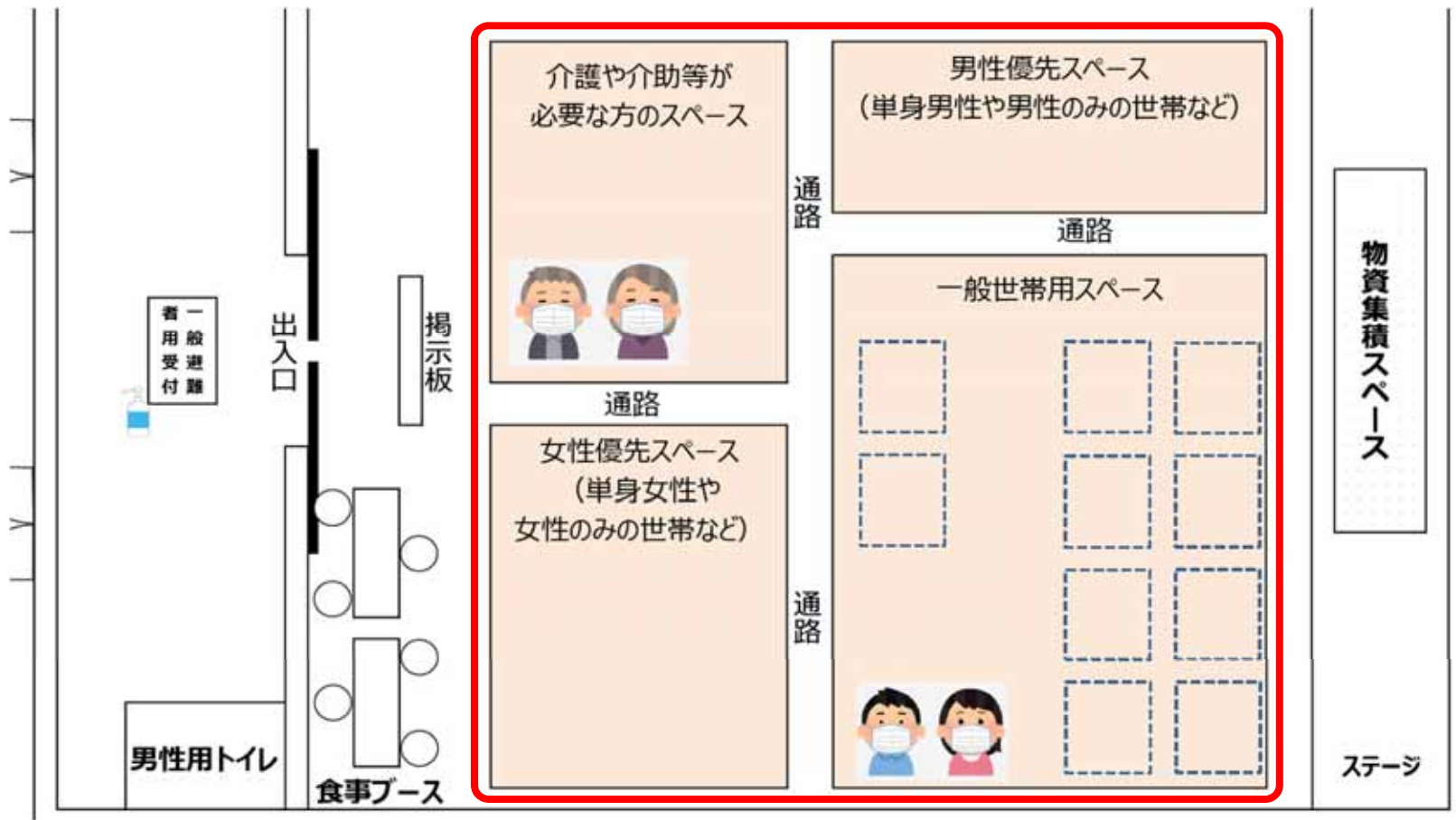
【参考：新型コロナウイルス感染症を踏まえた 地域防災拠点のレイアウト】

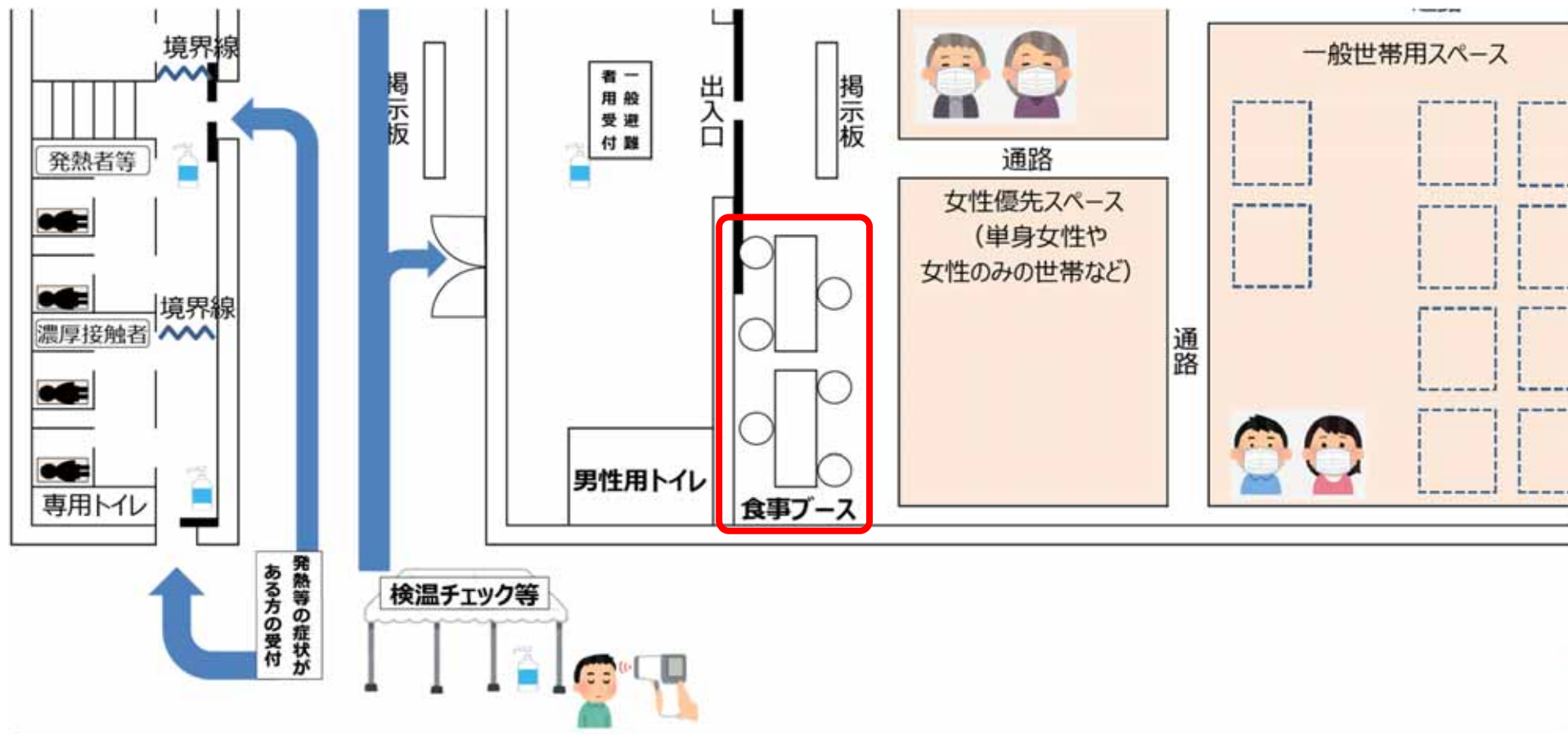


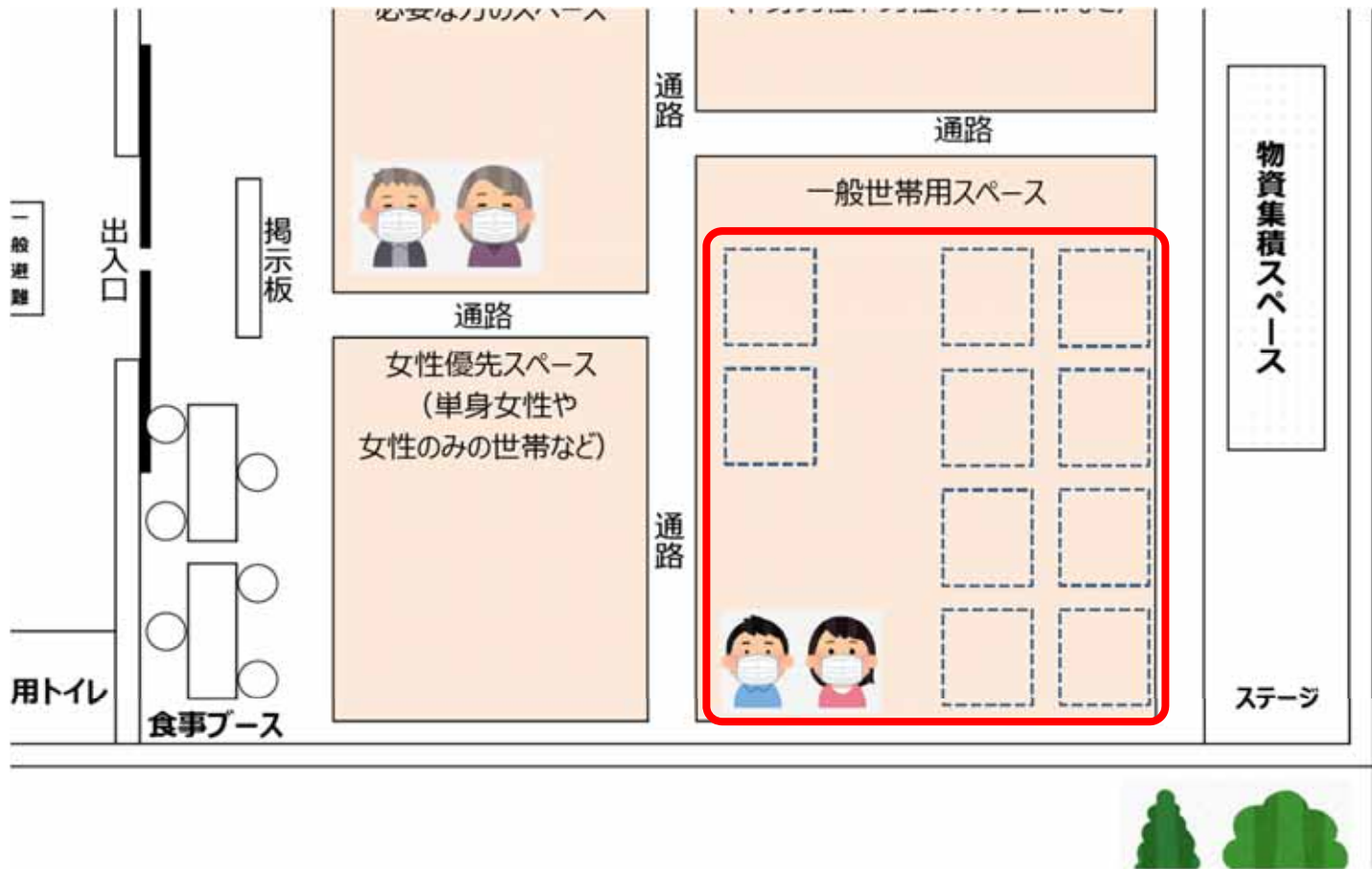








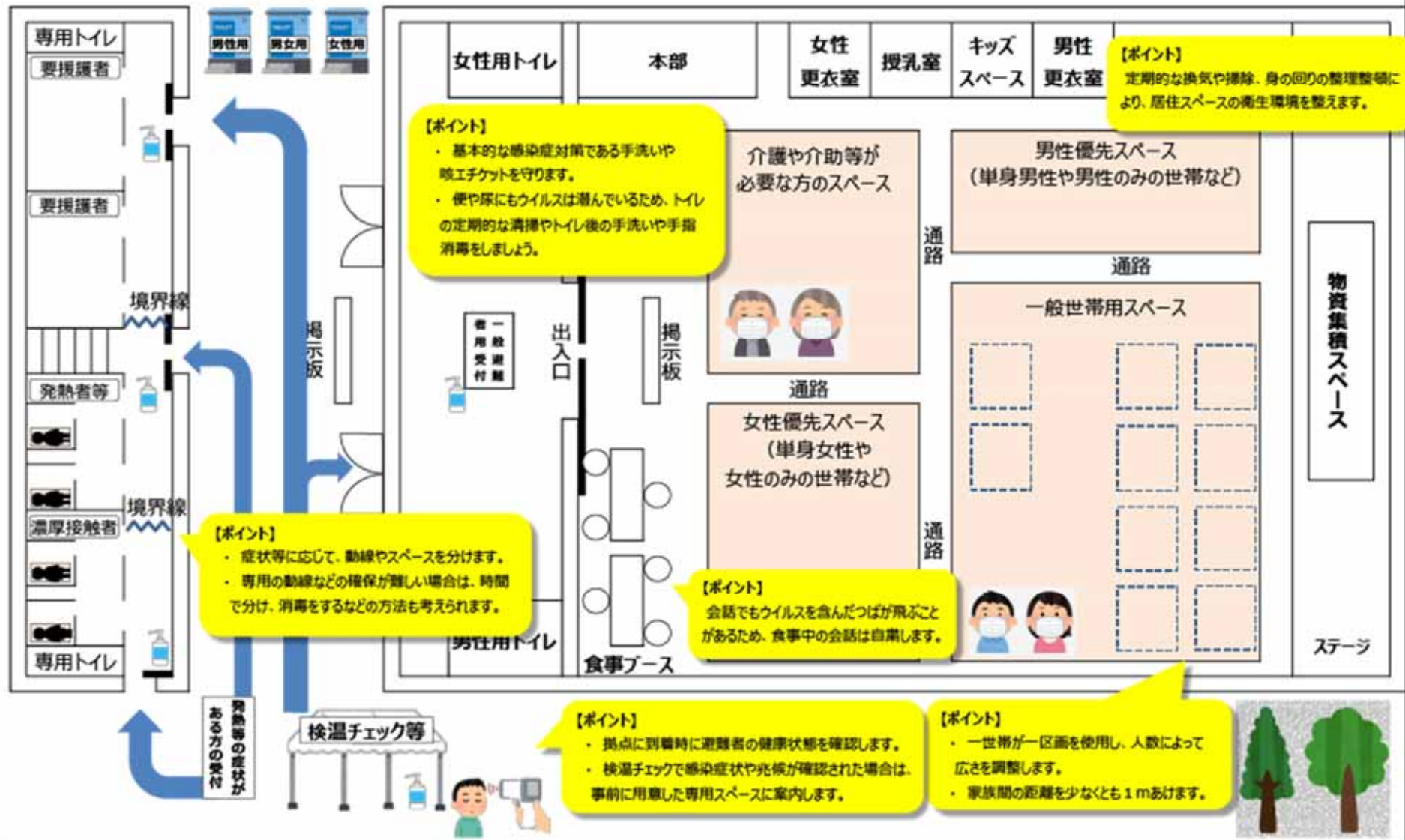




地域防災拠点のレイアウト例

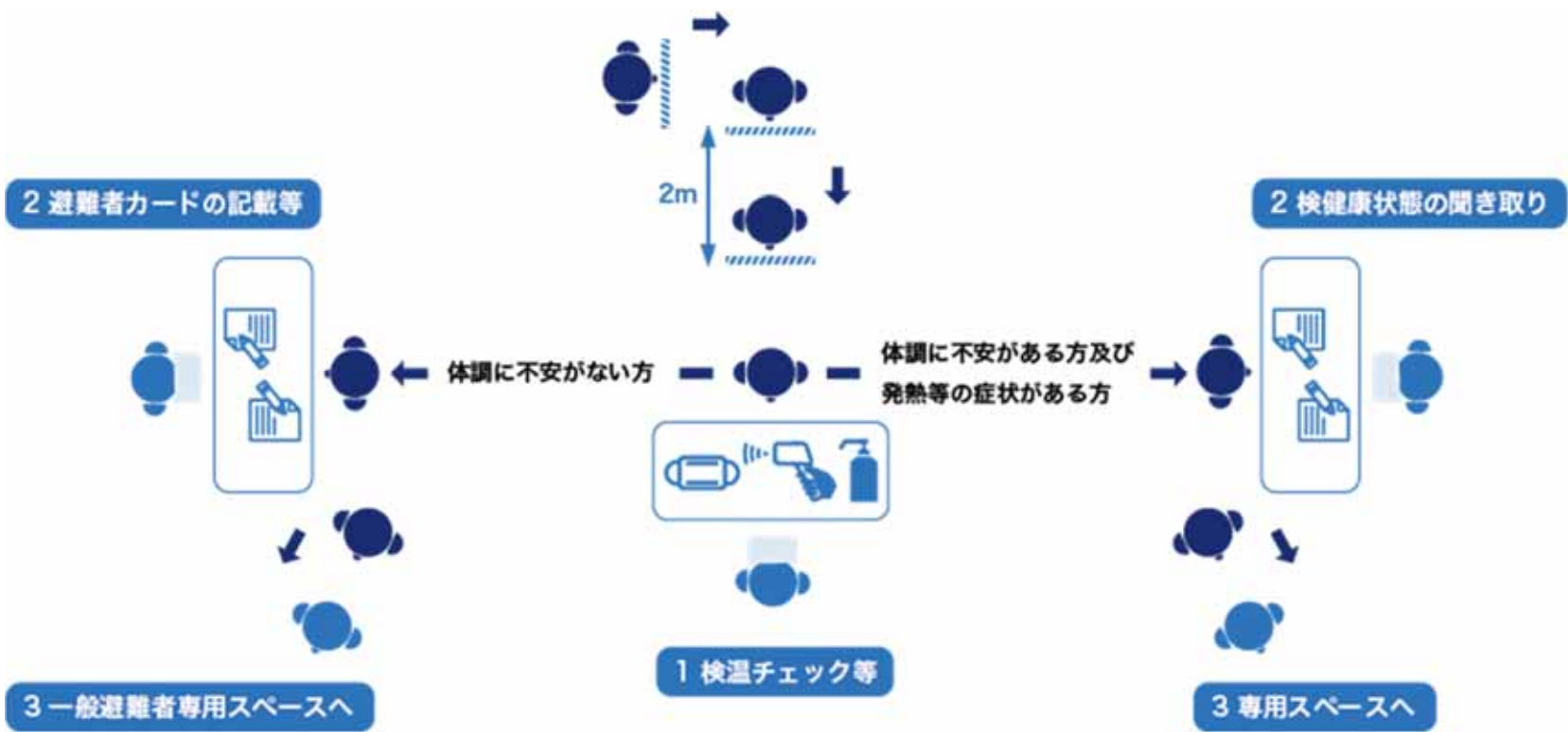
新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえると、災害が発生し避難所を開設する場合には、感染症対策に万全を期することが重要となります。

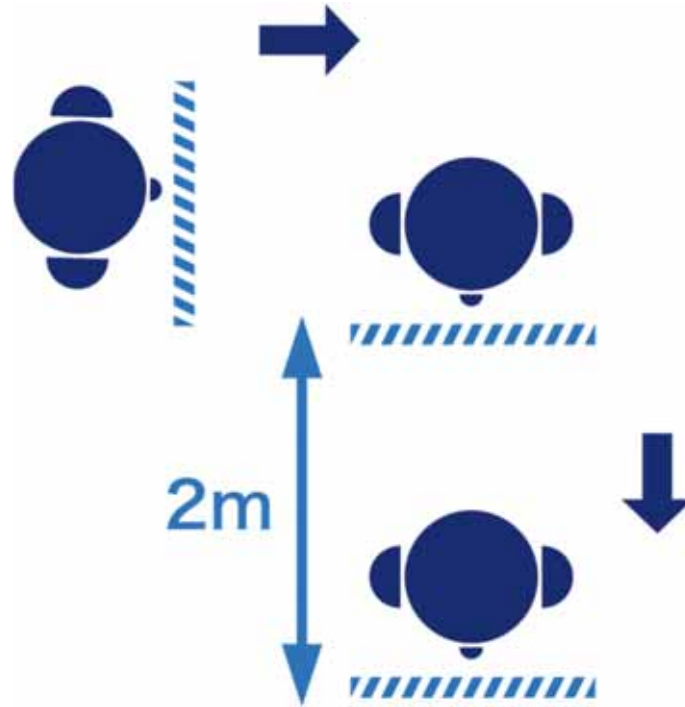
発災直後は混乱しており、すべてに対応することは難しい場合もあるため、**できる範囲から取組みを進めましょ**う。



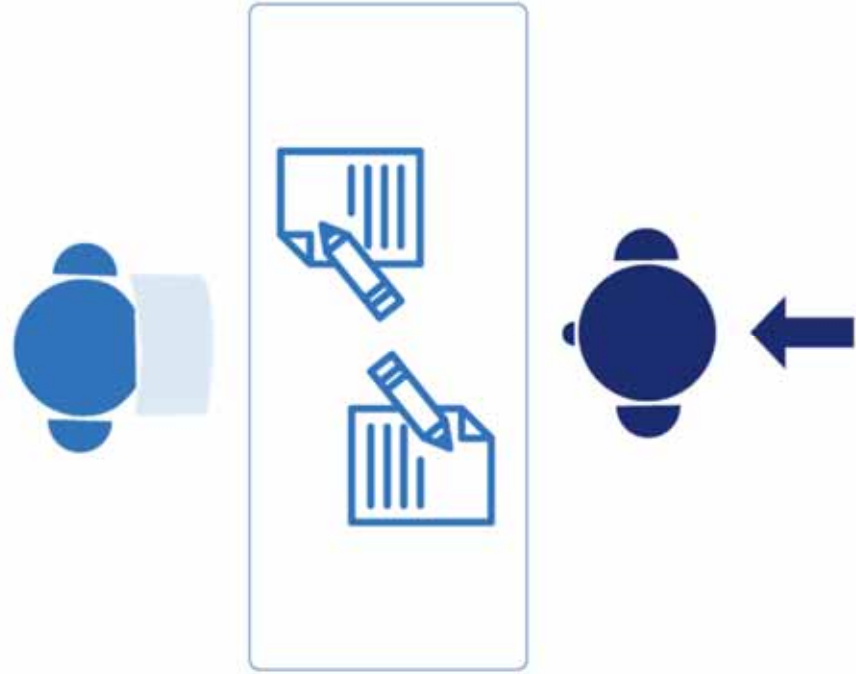
3. 発災後に実施する事項 < 地域防災拠点での受入れ >

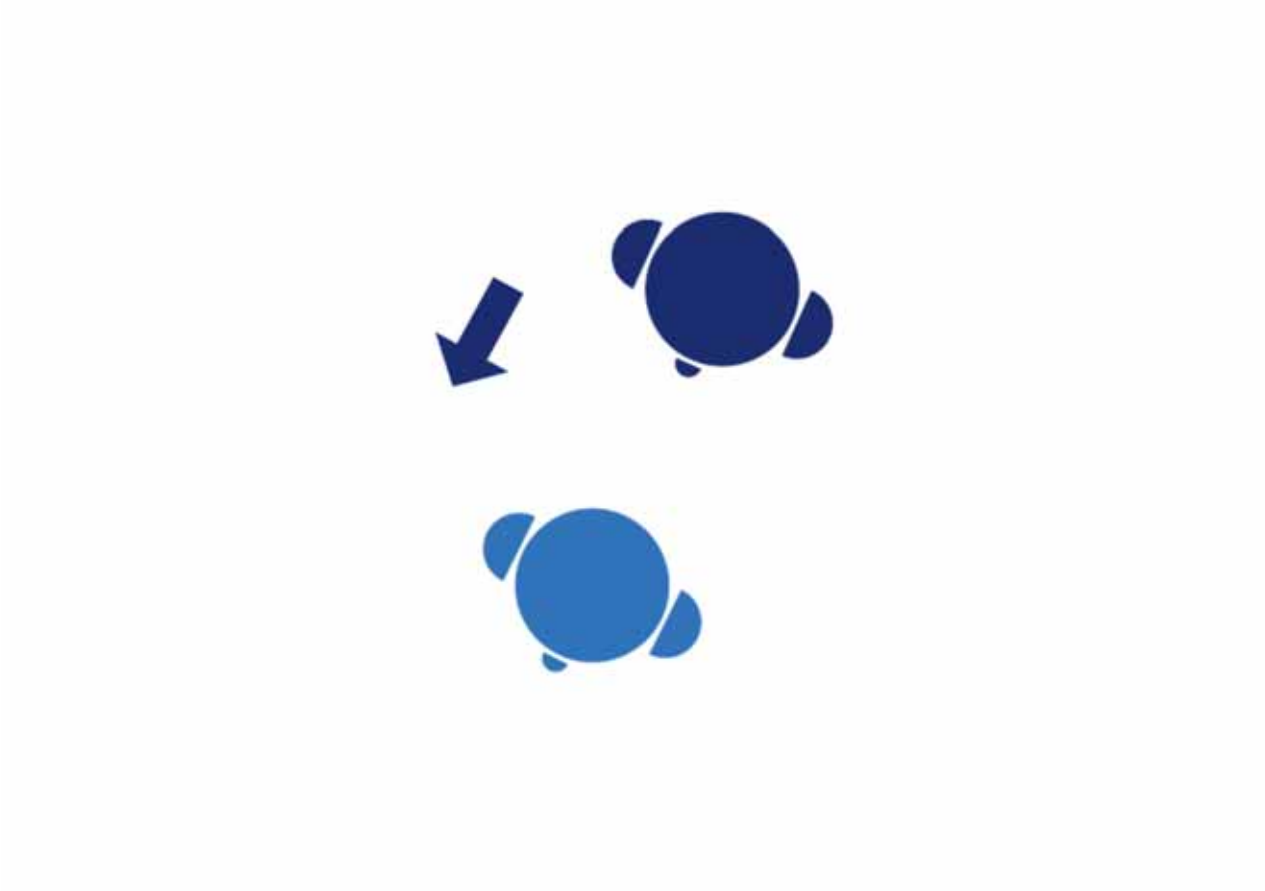


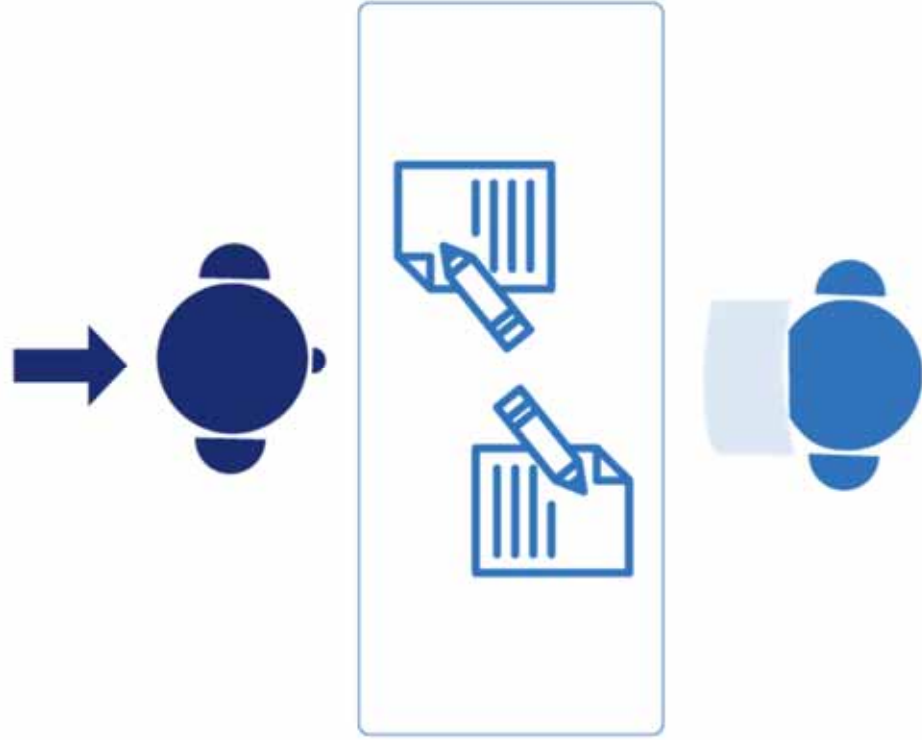




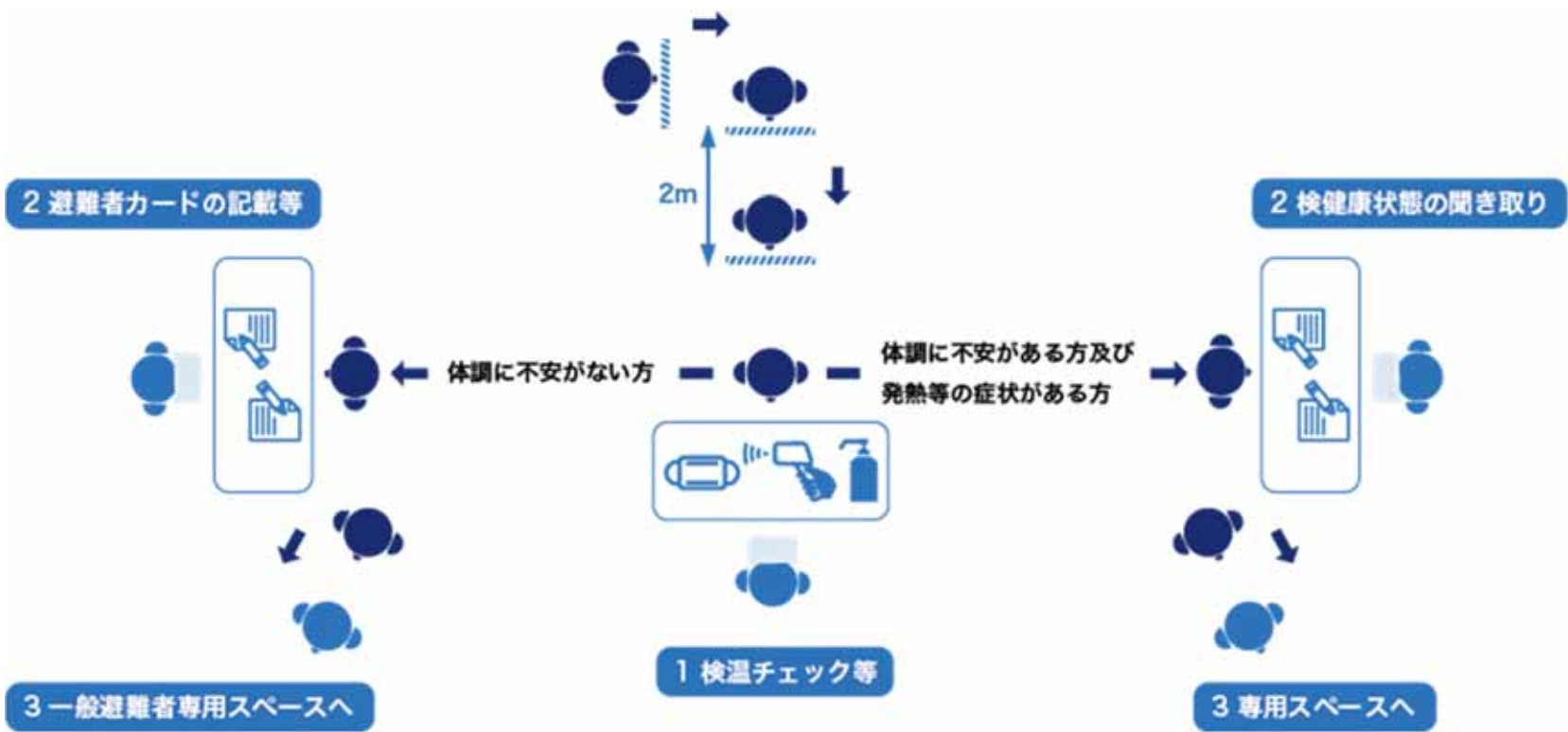












3. 発災後に実施する事項 < 運営上注意すべき点 >

1 手洗いや咳エチケットの徹底



手洗い



マスクの着用

3. 発災後に実施する事項 < 運営上注意すべき点 >

2 定期的な清掃や換気



清掃



換気

3. 発災後に実施する事項 < 運営上注意すべき点 >

3 避難者同士の間隔



間隔の確保

会話の自粛

3. 発災後に実施する事項 < 運営上注意すべき点 >

4 発熱や咳等の症状が出た方及び 濃厚接触者への対応



発熱や咳等の症状



長時間の接触

3. 発災後に実施する事項 < 運営上注意すべき点 >

5 廃棄物の処理



直接手で触れない



ごみ袋は2重に

円滑な拠点運営をするために

「新型コロナウイルス感染症を踏まえた
地域防災拠点開設・運営のポイント」を
事前に確認してください。



可能な限り、**訓練や研修**を行ってください。

ご清聴ありがとうございました。